



自立し、互に関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

Eジャーナルしずおか 9月

令和5年(2023年)
9月5日
火曜日
第263号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3674 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

シリーズ 小中学校における働き方改革 最前線

本県では、「学校における業務改革プラン」を2022年3月に改訂し、「教育の質の向上」と「教職員の心身の健康の保持増進」を目的とした学校における働き方改革を推進しています。

令和5年度は、全小中学校の校務分掌に「業務改善『夢』コーディネーター」が位置付けられ、各校の課題に即したさまざまな取り組みがコーディネーターを中心に進められています。また、県教育委員会事務局

では、効果的に取り組むことができる「ペーパーレス化」に注目し、重点取り組みとして取り上げていきたいと考えています。

そこで、本号から「ペーパーレス化」などの取り組みをシリーズで紹介していきます。第1回は、市町教育委員会が先頭に立って学校を支援する取り組みとして、クラウドツールを活用し、ペーパーレス化や事務業務の削減に挑戦した三島市教育委員会の事例を紹介します。

三島市教育委員会

kintoneを活用した学校の業務改善

はじめに

三島市教育委員会(以下、市教委)では、多くの自治体や企業で導入されているサイボウズ株式会社(以下、サイボウズ)の「kintone(キントーン)」を導入し、一定の成果を上げています。令和5年度から、年度当初に保護者や教員にとって負担となっている「家庭環境調査票」や「各種問診票」などの書類の提出・管理をICT化しました。その結果、1万枚のペーパーレス化、推計530時間の事務作業時間の削減が達成されました。

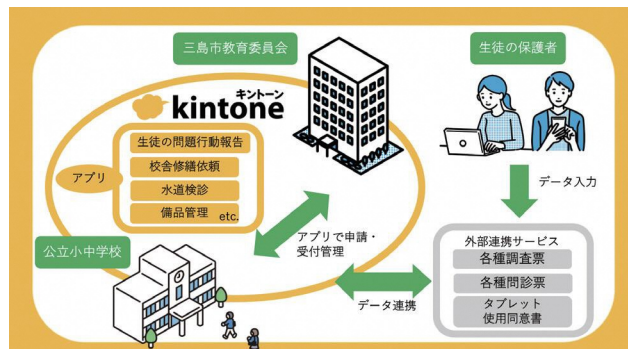
きっかけ

令和3年度経済産業省「未来の教室」実証事業の一環として、三島市の中学校が学校における働き方改革のモデル校に選ばれ、サイボウズによる教員のチーム化により実現する働き方改革の実証事業が行われました。サイボウズ担当者がGoProを使って教頭先生の業務を記録し確認したところ、驚くべき紙の使用量が明らかになりました。これをきっかけに、市教委に対しペーパーレス化が提言され、kintoneを実証事業の一環として導入する決断をしました。



保護者も学校も楽に

さらに、家庭環境調査票や各種問診票などの提出・管理に関する業務の改善にも取り組みました。これまでは保護者に複数の帳票を配布し、後日提出してもらっていました。回収後、教員がシステムに手入力して管理していたため、年度当初の業務として保護者も教員も非常に負担がかかっていました。そこで、外部連携サービスを活用し、保護者には家庭環境調査票などをオンライン入力していただき、入力された情報を教員がkintoneで確認できるようにしました。このシステムの導入により、約1万枚の紙の使用が削減され、教員の作業時間も推計で530時間削減されました。



引用元：2023年5月26日サイボウズ(株)ニュースリリース <https://topics.cybozu.co.jp/news/2023/05/26-18449.html>

おわりに

市教委では、「児童生徒の幸せ＝働く教員の幸せ」というモットーを掲げており、教員の願いである「長時間労働から解放されたい」「児童生徒と向き合う時間を増やしたい」「家族やプライベート、自己研鑽に割く時間を増やしたい」という希望を実現するために、働き方改革をさらに進めてまいります。

修繕依頼業務の改善からスタート

まず取り組んだのは、学校施設の修繕依頼業務の改善でした。これまでは、学校から市教委へメールでエクセルシートを送付し、校内では決裁用として印刷し保存していました。しかし、この仕組みは教員や市教委にとって負担が大きかったのです。そこで導入されたのが、kintoneによる修繕依頼アプリです。このアプリにより、作業時間の削減だけでなく、修繕箇所の見落とし防止や修繕の進捗確認が容易になるなど効果が上がりました。

	【改善前】	【改善後】
教員	教員は破損箇所をデジカメで撮影。	教員は破損箇所をタブレットから撮影し、iPadで撮影した画像を直接取り込める。
教員	画像をパソコンに取り込み、Excelの様式に貼り付けて依頼書を作成し、メールで送付。	修繕依頼が登録されると自動的に通知される。依頼内容に沿って、修繕の手配を行う。過去の依頼も一覧にまとまる。
教育委員会	対応履歴は電話やメールでやりとり。都度対応で過去の依頼情報はまとまっていない。	

現場の声

この取り組みに対して、現場では「情報の検索が容易になり、入学児童の情報や配慮事項を確認しやすくなった」「記入漏れが減少した」「ファイリングの手間が省けた」「破損や紛失リスクがなくなった」など、事務作業の削減だけでなく、管理のしやすさなどを実感したとの声が上がっています。一方で、「大規模災害による停電や通信障害などの緊急対応時に、すぐに情報を確認できない」などの意見もいただいています。

現状に満足しない

ただし、改善の余地はまだあります。例えば、学齢児童届出書や転出転入による学齢名簿の異動処理に対応する、kintoneアプリのアップデートを進めています。また、備品管理や不用品バンクアプリなども、今後運用していく予定です。

※令和3・4年度の働き方改革推進校の先行事例は、グーグルクラスルーム「推進校の取組事例」から見るすることができます。(入室アカウントは各学校に配布済みです。)

【義務教育課】